

内航二団体（内航労務協会・一洋会） 第1回 内航交渉委員会（概要）

内航二団体との第1回中央交渉は、14時30分から開催した。交渉委員会は組合側幹事の司会で始まり、労使双方の交渉委員を確認した後、船団側を代表して内航労務協会の福田和志会長、組合側を代表して松浦満晴組合長がそれぞれあいさつを行った。

次に交渉委員会運営を確認の後、組合側から要求について趣旨説明を行い、船団側から、今次労働協約改定に関する申し入れはないとの報告がなされた。

交渉では組合側から、組合要求に対する考え方を質したところ、船団側は、世間の状況を踏まえながら組合要求を真摯に受け止め、期限内自主円満解決を図りたい。また、年間臨時手当の同時決着について、船団側は異論ないとした。

最後に、「有効期間」については本日段階で仮合意とし、次回交渉については3月11日13時30分から、関西地方支部で開催することを確認し、15時に第1回内航交渉委員会を終了した。

船団側あいさつ（概要）

内航海運を取り巻く環境に目を向けますと、過去3年間にわたる賃上げにもかかわらず物価上昇の影響により実質賃金の伸びは限定的で、国内消費の拡大にまでは至っておりません。この消費低迷を反映し、荷動きは依然として低調で厳しい状況が続いております。さらに安全運航に必要な不可欠な船員費、燃料費、修繕費、船用品費などのコストの急激な上昇を受け、収益が悪化し苦境に立たされている会社もあり、内航海運の現状を理解していただき、本交渉が平和的解決できるよう願う。

「海員だより」